



Assisted Reproductive Technologies in Cyprus

キプロスの生殖補助医療

Interviewee

Dr. Michalis Chrysostomou

Q. あなたの専門分野とこれまでのキャリアについて教えてください。

過去 28 年間、産婦人科医として、キプロスを拠点に活動してきた。専門は体外受精、不妊症、内視鏡手術、美容婦人科、そして過去 5 年間は婦人科に応用した再生医療。仕事の約 30~40%は体外受精と不妊治療。

グローバル再生医学アカデミーの科学委員会の委員を務めている。第4回グローバル再生医学会議が9月にセルビアで開催され、卵巣若返りの新しい治療法などが議論される予定。

Q. 不妊治療に対するキプロス政府の姿勢は？体外受精治療に対する政府の補助金はありますか？

キプロスは小さな島で人口も少ないが、不妊症は年々増加しており、不妊領域における政府の援助は重要。

体外受精 (IVF) に限り、国からの助成金が受けられる：

- ・ 1回目の体外受精と、失敗した場合の2回目以降の体外受精に 2,500 ユーロ。
- ・ 出産後の追加周期には 1,000 ユーロ。
- ・ 薬剤は医療制度により無償。

概算で、キプロスでの体外受精の 1 サイクルの費用は約€3,500-€7,000 プラス薬代となる。

Q. キプロスの医師はどの国で体外受精のトレーニングを受けていますか？不妊治療を行う医師のキャリア見通しは有望ですか？

ドイツとギリシャで医師としての訓練を受けた後、ロンドンで ART 技術を学んだ。ほとんどのキプロスの医師はイギリスで体外受精のトレーニングを受けるが、イスラエル、ギリシャ、ドイツを訪れる医師も少なくない。

キプロスには、不妊治療専門医のための非常に良いキャリアの展望がある。希望する医師は、たとえ不妊治療センターで研修を受けていなくても、不妊治療を行うことができる。

Q. 現在、キプロスにはいくつの治療施設がありますか？体外受精のサイクル数や成功率に関するデータはありますか？

現在、Limassol には 5 つのセンターが、Nicosia には 6 つのセンターがある。毎年、全国で合計約 1,500 の体外受精が行われている。

キプロスには不妊治療専門医の協会があるが、追跡可能なデータを提供していない。

Q. キプロスには体外受精や生殖補助医療を規制する法律やガイドラインがありますか？また、現在議会で審議されているものはありますか？

キプロスには、卵子提供や代理出産を含む ART を規制する厳しい法律がある。これらはイギリスの法律と規制に基づいている。これらの法律に背いたり、重大



なミスを犯した医師は、重大な結果に直面する可能性がある。

外国人患者は、自分のクリニックの患者の 10~15%を占めている。イギリス、フランス、ギリシャからの患者が多い。アラビア語圏からの患者はほとんどいない。外国人患者は一般的に卵子提供や代理出産を求める。他の国のクリニックで何度も失敗した後、セカンド・オピニオンを求めてやってくることもある。

Q. 同性カップルは依頼可能ですか？

キプロスでは歓迎されているが、自分ほとんど見たことがない。

Q. 近隣のイスラム教徒が多い国からの患者はキプロスで治療を受けますか？ 彼らはどのようなサービスを求める傾向がありますか？

自分が知る限り、海外からの患者でイスラム教徒は多くはない印象だ。

Q. アジア諸国からの患者を受け入れていますか？ どの国からですか？ 彼らとのコミュニケーションに難しさはありますか？ どのように克服していますか？

自分のところには、自分で妊娠したくないという理由で代理出産を希望する中国からの患者が来ている。PGD やその他の特殊な体外受精の技術を求める中国人患者もいる。

エージェントを通して来る中国人患者もいるが、ほとんどはキプロスに住む知り合いの中国人からの推薦でクリニックにやってくる。

中国人患者には常に通訳が付き、コミュニケーションを助けている。文化の違いから生じる問題は感じていない。

Q. 国際的な政治情勢はキプロスの不妊治療の需要に影響を与えていますか？

あまり多くはない。以前は、仕事でキプロスを拠点にしているロシア人が大勢いた。これらの人々の多くはその後、国を去ったので、結果として患者の数が少し減っている。

Q. キプロスの人権団体は代理出産や不妊治療に批判的ですか？ 教会や宗教団体の見解は？

体外受精やARTは、もはや論争的ではない。28年前、自分がキャリアをスタートさせた頃は、他人の目を気にして体外受精センターに通うことは難しかった。今では、患者たちはそのような心配はしていない。

ARTは、自然に子供を授かることができない人々を助けるための手段とみなされているため、目立った人権批判はない。対話はサポートのひとつ。

教会はART技術の使用を支持していない。患者によっては、ARTを利用するかしないかの決定を、司祭などと相談する必要があると感じるかもしれないが、これは個人的な決定だ。

Q. キプロスで精子提供はどのように行われていますか？ それは匿名ですか？ 将来、子供が提供者を知ることは可能ですか？

キプロスでは精子提供が可能であり、完全に匿名で行われている。将来的にドナーとドナーの子供を結びつける手段はないと考えている。キプロスでは商業的なDNA検査はまだ一般的ではない。



Q. キプロスでは卵子提供や代理出産は行われていますか？ どのように行われていますか？

代理母は、キプロスの女性でなくともなれる。ほとんどがキプロス在住の外国人女性で、ごく少数、代理出産をするために特別に外国から来る女性もいる。代理母は 40 歳以下であることが多く、離婚していることも多い。現在、代理出産や卵子提供者として親族を利用することは違法であるが、これを可能にするために法改正が試みられている。

代理出産は 2 回までできる。女性は 53 歳以下でなければならない（これは通常の体外受精の年齢制限と同じ）。代理出産に先立ち、女性は血液検査、精神鑑定、犯罪歴チェックを受け、厚生省から安全に妊娠できるという許可を得なければならない。

代理母になる動機は主に金銭的なものだと考えているが、代理母がどれくらいの収入を得ているかは知らない。代理出産を希望する依頼者と代理母は、弁護士を通して代理出産契約の条件を直接交渉する。厚生省は、倫理的な理由と赤ちゃんの人身売買などのリスクを排除するために、医師がこのプロセスに関与することを禁じている。

Q. 代理出産にスティグマはありますか？

代理母になるのは、キプロス在住の女性が多い。自分は、代理母になったからといって、スティグマを負うことはないと考えている。

Q. 代理母と依頼者はコンタクトを取りますか？

ほとんどの場合、依頼者と代理母は密に連絡を取り合っている。代理母をサポートするために同じ家に住むこともある。

代理母と依頼者の間に問題や緊張が生じることもあるが、それはまれなこと。

Q. 代理出産後、子供を連れて帰るための手続きはスムーズですか？

子供の出生証明書には、最初から両親の名前が記載されている。出産後に DNA 検査を受ける人もいるが、これは義務ではない。自分は、生まれた子供のパスポート取得に苦労したカップルを知らない。

Q. 代理母が子供に執着する問題がありますか？ 帝王切開での出産は一般的ですか？

法律により、代理母は出産時に赤ちゃんに会うことはできない。出産は一般的に帝王切開で行われ、代理母は子供と接触することはない。

Q. 不妊治療が終わった後に残った胚はどうなるのですか？

残った胚は、カップルが廃棄を選択しない限り凍結される。自分のクリニックでは、残った胚を保管するために年間 300 ユーロを請求している。

Q. コロナ下で、代理出産はどのような問題を抱えましたか？ どのように対処しましたか？

代理出産の場合、代理母自身がキプロスに住んでいるため、大きな問題はなかった。

COVID-19 の間、体外受精を希望するカップルの数が、経済的なプレッシャーから大幅に減少した。

Q. 全体として、キプロスにおける生殖補助医療はどのような問題を抱えていますか？



現在、キプロス不妊治療はヨーロッパのガイドラインに従って規制されており、特に問題はない。

しかし、代理母は不足している。代理母を探すのは難しい。なぜなら、代理母募集の広告を出すことが禁止されているから。代理出産はクチコミで行われる。代理母が直接クリニックに来て、サービスを提供することも可能だが、こういうケースは珍しい。

グルジアの市場が変化し、ロシアとウクライナに影響を与えている紛争があるが、代理出産のためにキプロスに来る人は増えていない。広告が違法であるため、人々はそれが選択肢であることを知らないのだろう。

Q. 海外から治療を受けに来た患者について印象的なエピソードや逸話があれば教えてください。

不妊患者は、独特の心理的困難に直面しているという点で特別。多くの人は、妊娠することに何の問題もないと思っていたが、努力したにもかかわらず、その目標を達成できなかった。例えば、非常に裕福で、望むものは何でも持っているが、子供を授かることだけが実現できない人がある。このような患者には心理的なサポート（カウンセリング）が必要だ。また、不妊治療を担当する医師を全面的に信頼できることが必要だと思う。

Q. その他

今度のグローバル再生医学会議で、女性の生殖能力と寿命を延ばす方法について研究発表する。この研究はキプロスで過去8ヶ月間にわたって実施された。

この4、5年の間に、治療に対する反応が悪く、卵巣予備能が非常に低い早発閉

経の女性の数が著しく増加していることがわかった。自分の意見では、この増加は COVID に関係している。卵巣予備能の低い女性や早発閉経の女性を日々観察している。その結果、卵子提供の需要が増加すると予測している。卵子提供が認められていない国は世界中に45カ国もあり、そのような女性が妊娠できるような治療法が開発されなければ、家庭を築くことができない不妊症のカップルがたくさん生まれることになる。これは世界中で大きな問題となっている。

(2023年8月)

Dr. Michalis Chrysostomou

ドイツのゲッティンゲン大学で医学博士号を取得。その後ギリシャのアテネ医科大学で産婦人科を専攻。不妊症、内視鏡手術、美容婦人科を専門とする産婦人科医である。

現在はキプロスにある IASO Medical Centre の CEO をしている。

IASO Medical Centre [Link](#)